

自分自身の免疫で完治するという強い決意で
治療を開始。ほぼ完治された方の手記。

「潰瘍性大腸炎手記」 金子 正樹 36 歳

2015 年 3 月 20 日

潰瘍性大腸炎 罹患 2009 年から

私は転勤のある某書店で店長として働いています。症状は 2009 年の 9 月に唐突に現れました、お腹の張りとお腹の下血が続き、日に 5 回から 10 回はトイレに行く生活が続きました。地元の病院に行き診断結果は、おそらく潰瘍性大腸炎で完治は無理であるとのことでした。処方されたリンデロンという座薬を使用しましたが、下血が完全に収まることはなくトイレの回数も増えることはあっても減ることはありませんでした。その後、他県に転勤となり環境に不馴れなせいか更に症状は悪化しステロイドとアサコールが処方されました。ステロイドで下血は直ぐにとまりました。ですが、副作用として肌に吹き出物ができ、風邪を引きやすくなりました。下血はなくなったもののこれでは、健康とは程遠い体調です。また死ぬまでこんな体なのかと絶望しました。2013 年 3 月、松本病院を私の体を心配した妻が見つけてくれました。私は群馬に住んでいるのですが意を決し一路、大阪に向かいました。松本先生は必ず病気は治ると握手をしてくださいました。必ず治る。完治は無理と言われた患者にこれ以上の言葉ありません。私は原因不明の病気になった体を少なからず憎んでいました。しかし松本先生は病気を治すのは自分の免疫だ、漢方は免疫を助けるものだ、今までやってきた治療は免疫を下げるもので、それでは病気が治るわけがない。漢方による治療は時間がかかり、体質が変わる時にアトピーがでるがそれを越えれば、よくなっていく。と教わり、それを信じて治療を開始しました。完治したかったのです。どうしても。その日からアサコールを半分の 3 錠にし漢方薬を飲み始めました。漢方薬は慣れるまで口に合いませんでした、味も匂いも苦い。ですが 5 カ月ほど続けると足首から顔面以外の全身にアトピーと口内炎ができました。全身をかきむしる日々を処方して頂いた軟膏で、なんとかやり過ごし、一カ月後、何年ぶりの固形便ができました。下血も激減しトイレの回数も日に 2、3 回になりました。いまでも過度のストレスが、かかると若干の下血がありますが日常には支障をきたしておりません。トイレとクスリに縛られる日々から解放されたのです。

いま潰瘍性大腸炎で苦しんでおられる方へ。漢方は時間がかかり、アトピーというリバウンドもありますが自分の免疫と松本先生を信じて治療を受けてみてはどうでしょうか。私はいま漢方薬以外のクスリを飲んでおりません、憧れの健康体を手にいれつつあります